



祝！大図研 全国大会@京都 プレ企画のご案内

「暑い京都をビールで乾杯」

2017年9月9日（土）～11日（月）同志社大学 新町キャンパス 臨光館で大学図書館問題研究会全国大会が開催されます。

http://www.daitoken.com/research/annual_conference/2017/

現在、開催に向けて日々奮闘しています。

このたび京都地域グループでは、全国大会が成功することを祈願するとともに、暑い京都で全国大会の準備を精力的に取り組むために、以下の企画をいたしました。

施設の制約上参加人数に限りがありますので、ご了承ください。

会 場：〈天然水のビール工場〉京都ブルワリー

<http://www.suntory.co.jp/factory/kyoto/>

集合場所：京都ブルワリー内、待合スペース

※大図研のプラカードを持っている人を見つけてください

日 時：2017年7月29日（土）14:30-16:00 ※開始10分前にはお集まりください

内 容：「ザ・プレミアム・モルツ講座」に参加します。ビール製造工程を見学し、知識を豊富にしてから、冷たいプレミアムモルツの飲み比べ体験をします。

アクセス：以下のURLからご覧ください。 ※無料送迎バスをご利用ください

<http://suntory.jp/KYOTO-B-AC/>

参加費：無料

定 員：9人

参加条件：大図研の会員のみとさせていただきます。

申込方法：京都地域グループ web サイトをご覧ください。

[目 次]

祝！大図研 全国大会@京都 プレ企画のご案内 「暑い京都をビールで乾杯」	…	1
小特集：大図研京都ワンディセミナー	…	2
「体験！「問題解決型ファシリテーター入門」」参加報告	…	2
大図研京都ワンディセミナー参加報告	楠見 牧子	… 2
「体験！「問題解決型ファシリテーター入門」		
大図研京都ワンディセミナー	若松 克尚	… 4
『体験！「問題解決型ファシリテーター入門」』参加報告		
会費納入のお願い	…	6

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたは URL へお寄せください。

電子メール：kyoto@daitoken.com（大学図書館問題研究会京都地域グループ）

URL：<http://www.daitoken.com/kyoto/index.htm>

小特集:大図研京都ワンディセミナー
「体験!「問題解決型ファシリテーター入門」」参加報告

大図研京都ワンディセミナー参加報告
「体験!「問題解決型ファシリテーター入門」

楠見 牧子

今回の京都支部のワンディセミナーは、キャンパスプラザ京都にて、2016年12月11日に開催されました。ファシリテーター、という言葉は恥ずかしながら初めて知りましたが、ビジネスの世界では概念としては一般化されているとのこと。問題解決型、ということに参加を楽しみにしていました。

講師の北村志麻(きたむらしま)さんですが、図書館パートナーズの代表を務めておられ、ファシリテーション技術を図書館向けに設計した「ライブラリー・ファシリテーター認定講座」を開催されています。元々は英会話スクールNOVA、証券会社、信用調査会社等の民間企業に勤務されていましたが、2012年6月から墨田区立ひきふね図書館でイベント実施ボランティアを開始され、RFA認定リーディング・ファシリテーター、墨田区図書館運営協議会委員、墨田区ひきふね図書館パートナーズとして活動されています。行政との協働により、これまでに培ったビジネススキルを活かしつつ、年間60企画を実施しているとのこと。2015年10月独立の後は公共図書館館長向け研修、図書館ボランティア養成講座、埼玉県職員向け研修、丸善・紀伊國屋・ヴィアックス社内研修等をされています。そもそもボランティアを始められたきっかけとしては、元々図書館のヘビーユーザーで図書館を知のインフラとして利用して下さっており、恩返しとしてボランティアを始められたとのこと。図書館→ボランティア→利用者→講師のWin-Winな関係を目指して協働されています。

セミナーの流れですが、第1部はファシリテーター基礎知識、第2部は小グループに分かれて、アイデア出し等のグループワークでした。楽しむ、現状の打開策を見つける、新しい自分になる、明日からワクワクできるモチベーションを持ち帰る、が目標です。

第1部であるファシリテーターについての基礎知識では、ファシリテーションとそのスキルを持った人であるファシリテーターについて、どういったスキルであるか、それを身につければどういったメリットがあるのかを、事例などを交えつつ説明いただきました。

まず、ファシリテーションですが、リーダーシップの一形態であり、問題解決や合意形成を促進する技術としてアメリカで生まれ、会議の効率化はもとより社会変革をも引き起こす力を持っているとのこと。グローバルな自律分散社会を迎えて「21世紀でもっとも重要なスキル」とも呼ばれているそうです。もう少し具体的な言葉で言うと、「集団による問題解決、アイデア創造、合意形成、教育・学習、変革、自己表現・成長など、あらゆる知識創造支援活動を支援し促進していく働きがファシリテーション」『ファシリテーション入門』(堀公俊)となります。「組織による問題解決が硬直化している。従来型リーダーシップとマネジメントの限界」『ファシリテーション入門』(堀公俊)を解決するためのスキルで、ファシリテーターは、「場を促進し、場作りする人」と定義され、図書館における例として、「図書館や本をツールとした企画を実施する」、「課題解決がで

きる」など、「図書館・本を活用することで、図書館の存在意義を高める人」をあげておられました。

ファシリテーターのスキルは、「レベル1=会議のファシリテーター」、「レベル2=チームのファシリテーター」、「レベル3=組織のファシリテーター」の3つのレベルに分けて考えられるそうです。(同じ著者の方なので、とセミナー後に借りてみた『白熱教室の対話術』(堀公俊)によると、サンデル教授は大変優秀なファシリテーターとのことで、具体的にファシリテーターをイメージするには良いかと思います。)

そもそもなぜ図書館でファシリテーターかということ、これからの図書館員の役割の変化を考えていく上で、必要なスキルと考える動きがあるからだそうです。『図書館員のためのPR実践講座』(仁上幸治)では既に「これからの司書とは、プランナーであり、コーディネーターであり、プロデューサーであり、インストラクターである。また、コーチ・コンサルタント・コンシェルジュ・ファシリテーターであるべき。」(P22~P23より抜粋)との問題提起がなされています。大学図書館はコレクションを増やすだけでなく、電子書籍・電子ジャーナルへのアクセスを保証し、利用者教育に力を入れ、更なる省スペース化とラーニングコモンズを充実させるなどアクティブラーニング(=教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。)に向けての基盤作りを進めています。座学が時代に合わなくなっている中で、書棚を整えるだけでは、図書館員の機能を果たせなくなっているのです。情報をどう入手するかではなく、情報をどう使うかが重要となり、生徒への教育がライブラリアンの役割の一部になりつつあり、学習サポート=ファシリテーターが必要とされてきているという流れだそうです。

ファシリテーションができるようになるにはまずはロジカルシンキング、コミュニケーション力、PDCA、プレゼンテーション、アイデア発想法、リーダーシップといったビジネススキルが必要ですが、ファシリテーションができると、「現状を変えられる」、「創造的仕事ができる」、「仕事が奪われにくい」ことに繋がる、とのこと。「図書館員の補助員」は『雇用の未来』(マイケル・A・オズボーン)でこれから先無くなる仕事に挙げられていますので、今後図書館員の仕事の価値を作っていくのに重要なスキルと感じられました。

第2部のワークショップはいくつかのグループに分かれて、まずはこのワークショップ内だけのニックネームを名乗って自己紹介する、という非日常な状況から始まりました。自分の名前を覚えるのが意外に大変ですが、グループメンバーが、なぜその名前にしたのか、は興味深く、親近感が増す感じがします。ワークショップ形式で行うのは、自分の頭で考え、自分で気付くことで、変容が起こり、成長や行動が変わることを目的としているそうです。

その後、ワークの中でだけ通用するグラウンドルールを設けたり、相手の良いところをほめるワークをしたりなどで頭と雰囲気をはぐしたところで、問題解決を模索するワークである「3分間アイデアソン!」に取り組みました。「3分間アイデアソン!」とは制限時間の中で、アイデアソンシートに各自が職場等で抱えている課題をテーマに書き込み、テーマとキーワードを結びつけた新アイデアで、課題解決を図るものです。「F1グランプリ」、「フリクションペン」、「パチンコ」が今回のキーワードでした。自分の中でNo.1を決めて、グループ内でシェアします。支離滅裂なことになっているものもありましたが、自分の中からそれまでになかった発想が引き出されてくるのが面白いワークでした。グループのメンバーで課題をシェアすることで、新しいアイデアをもらえたり、引っかかっていた部分が解消されたりして、より形のあるものになることがあり、周りからのアドバイスの重要性を実感しました。

最後は企画書作成です。ここまでのアイデアを踏まえ、新しい企画やサービス、現状の改善策を企画書で A4 一枚にまとめて、グループ内で発表します。そして、一番これは、という企画書を代表で発表しました。アイデアソンで思いついた内容も、いざ企画書に落とそうとするとまとまらなかったりします。

今回はグループワークあり、ということでハードルが高いのか、やや参加人数は少なめでしたが、その分皆さん熱心で、集中して取り組むことが出来ました。同じ仕事を繰り返す比率が高かったこれまでの図書館の仕事から、役割から考え直す時代に私達はいるわけですが、今後の試行錯誤にしっかりと活用していきたいと思います。

大学図書館問題研究会京都支部の HP に当日のスライドが掲載されているので、全体の流れや参考文献を知りたい方は是非ご覧下さい。

くすみ まきこ (京都大学附属図書館宇治分館 学術情報掛)

小特集:大図研京都ワンディセミナー 「体験!「問題解決型ファシリテーター入門」」参加報告

大図研京都ワンディセミナー 『体験!「問題解決型ファシリテーター入門」』参加報告

若松 克尚

2016年12月11日(日)に開催された、大図研京都ワンディセミナーに参加させていただきましたので、セミナーの概要を報告をさせていただきます。

1. 概要

講師は、「ライブラリー・ファシリテーター®認定講座」等を展開されている、図書館パートナーズ代表・北村志麻様。同講座の“さわり”となる部分を講演+ワークショップで体験させていただきました。

<講師略歴>

英会話スクール、証券会社、信用調査会社等で勤務後、2015年10月独立。

2012年6月から、墨田区立ひきふね図書館にてボランティアを開始。

ここで培った経験をもとに、図書館パートナーズ設立。

2. 講演(基礎知識)

講演では、まず、なぜ、「ライブラリー・ファシリテーター®」が必要だと考えるのか、講師の自己紹介を交えながら、経緯の説明がありました。社会貢献の一環として始めた図書館ボランティアがきっかけになっている、ということでした。

また、大学図書館界で盛んになってきている「アクティブラーニング」が、これからの大学図書館にとってカギとなること、その促進のためには、黒子的な役割を担う『ファシリテーター』が必要になることを指摘されました。

併せて、『ファシリテーション』の技術に関しては、つぎの2冊を参考資料として挙げられています。

- ・ファシリテーション革命 (岩波アクティブ新書) 中野民夫(著)
岩波書店 (2003年) ISBN: 9784007000690
- ・ファシリテーション入門 (日経文庫) 堀公俊(著)
日本経済新聞出版社 (2004年) ISBN: 9784532110260

「ライブラリー・ファシリテーター®」の講座が、ワークショップ形式にこだわっている理由として、以下の3点も挙げられています。

- 1) 事前課題なし → 自分の頭で考える
- 2) 時間を区切る → 頭が働きやすくなる
- 3) ファシリテーション → やってみることが重要

3. ワークショップ

今回のセミナーで多くの時間を割かれたワークショップでは、議論を行う土壌づくりから始まり、最終的には、参加者各自が提案書を作成し、プレゼンするところまでを「やってみる」形で進められました。段階的に進められたワークショップの一端をご紹介します。

- 1) 名札作成
ワークショップを非日常空間とすることで、場づくりに。
- 2) ワークショップでの目標と達成後の姿の共有 (宣言)
参加者相互の目標を共有し、宣言することで、相互補助できるように。
- 3) 相互インタビュー
話を聴いてもらうことで、信頼感を得ることができる。
- 4) 課題の洗い出し、仕分け
参加者の抱えている課題を出し合い、共有。
- 5) アイデアソン
4) で共有した課題から、各自で一番の課題を選択し、お題に合わせてアイデア出し。
「アイデアソンシート」を利用して、お題の良いところを列挙。
テーマと結びつけた新アイデアを考案。これを8セット実施。
- 6) 企画書作成
5) で考えたアイデアから1つを選び、A4用紙1枚の企画書として作成。
- 7) プレゼン (グループ内)
6) の企画をグループ内で相互にプレゼン、評価。
- 8) プレゼン (全体)
グループ内プレゼンした企画から1つを選び、代表企画として全体にプレゼン。

4. 最後に

当日の研修風景、講師スライドは、大学図書館問題研究会京都支部のサイト (下記URL) で公開されています。

URL <http://www.daitoken.com/kyoto/event/20161211.html>
2017.1.17 アクセス確認

わかまつ かつひさ

◇ 会費納入のお願い ◇

会員のみなさまにおかれましてはご健勝のことと存じます。

2016/2017年度(2016年7月～2017年6月)より、大学図書館問題研究会会費は、すべての会員の皆さまに、直接大学図書館問題研究会事務局へご納入いただくこととなりました。

また、地域グループ(従来の支部)に所蔵される方は、地域グループ費と合わせてご納入いただくことになっています。

会費は、¥7,000(大図研会費：¥5,000+京都地域グループ費：¥2,000)です。

【振込先】

郵便局 00190-2-79769 大学図書館問題研究会

■銀行名 ゆうちょ銀行 ■金融機関コード 9900 ■店番 019

■預金種目 当座 ■店名 〇一九(ゼロイチキューウ店) ■口座番号 0079769

ご不明な点は大学図書館問題研究会事務局(会費担当)(kaihi@daitoken.com)まで。

※ 学生会員制度(試行)として、学生の方には特典をお渡ししております。

詳細は京都地域グループ Web サイトの「学生会員制度の試行について」をご覧ください。